

2024年6月12日 日本証券新聞掲載記事

兜町の御意見番

平野憲一の相場 表街道／裏街道 第494回

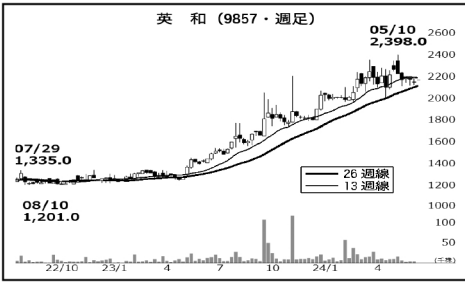


平野憲一氏プロフィール
1970年立花証券入社、2006年執行役を経て、2014年7月独立。現在、ケイ・アセット代表。株一筋50年のマーケットアナリストとして鋭い分析と定評がある。日経CNBC経済タレント委員会コメントアナリスト。日本証券アナリスト協会検定会員。

計測・制御機器や産業機械を専門とする技術総合会社である英和（9857・S）の事業領域は、石油化学、鉄鋼、機械製造業です。この業界は生産性向上を目指した自動化や、老朽化した設備の効率化投資が活発で、景気変動の影響を受けにくく、安定した業績を維持していました。ところが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でサプライチェーンに混乱が生じ、営業活動において対面営業が制限されたため、2022年3月期は苦戦を強いられました。

しかし23年3月期は売上高412億8400万円（前期比10・5%増）、営業利益18億9400万円（同21・3%増）、経常利益19億7900万円（同23・0%増）、当期純利益13億2000万円（同23・8%増）と大幅増収増益となりコロナ前を一気に上回りました。さらに前24年3月

英和は依然割安 押し目買い一貫で



期も売上高432億9200万円（前期比4・9%増）、営業利益23億2500万円（同22・8%増）、経常利益24億2100万円（同22・3%増）、当期純利益16億6700万円（同26・3%増）と大幅増益が続きました。中期3カ年経営計画の初年度となる今25年3月期は売上高440億円（前期比1・6%増）、営業利益23億5000万円（同1・1%増）、経常利益24億1000万円（同0・5%減）、当期純利益16億8000万円

円（同0・7%増）と、慎重な見通しとなっていますが、当初公表した見通しを上方修正しています。今後も同社の主要販売業界である石油化学、鉄鋼業界においては設備稼働率も上昇しており、人手不足を背景にした設備投資需要、老朽設備の更新需要、防災・復興・国土強靱（きょうじん）化など社会インフラ需要、自動車生産設備の省力化・IoT化需要、ビッグデータの活用や製造現場の日常メンテナンス需要を考えると、上昇トレンドは継続すると思います。

水害対策の河川監視機器、作業現場での重機・建機車両の事故防止機器など、専門性を生かした社会インフラ機器需要も高まっています。また、資本コストや株価を意識した経営にも拔かりなく、株主還元策も連続増配や株主優待を拡充し、ステークスホルダー・エンゲージメントの強化において強い社長メッセージを出しています。

これらの材料を受けて23年5月以降の株価は目覚ましい動きになっていますが、24年6月7日現在の予想PER8・10倍、実績PBR0・86倍、予想配当利回り3・26%とまだまだ割安です。今後も押し目買いで良いと思います。

※毎週水曜日に掲載します。